

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：ポピンズナーサリースクールみなとみらい	種別：保育所
代表者氏名：園長 高森 夏絵	定員（利用人数）： 50名
所在地：〒220-0012横浜市西区みなとみらい3-5-1 マークイズみなとみらい1F	
TEL：045-226-2112	ホームページ：https://www.poppins.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2013年5月30日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ポピンズ	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員 20名
専門職員	保育士 23名 栄養士 2名 看護師 1名
施設・設備 の概要	(居室数)
	5（給食室、応接室含む）
	商業施設内1階に設置 床暖房、テラス

③理念・基本方針

～人生で最も重要な時期の人間教育を目指します～

- 1.寛容な人間
- 2.聡明で愛情深い人間
- 3.探求心の旺盛な人間
- 4.グローバル社会で活躍できる人間

一人ひとりのお子様に個性があるように、知力のバランスも個性的です。それを見極め、持って生まれた力をさらに伸ばし、新たな力を見つけて引き出すことを目指します。友だちを大切に、自分の考えを言葉で表現できる、友だちの意見を聞くことができる等の『生きる力』を育むことを大切にしています。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・ポピンズアプローチによる0歳からの「エデュケア（education教育とcare保育の合成語）」を実践しています。ポピンズアプローチでは、子どもの知力を、言語・音楽・論理数学・空間構成・身体運動・自然科学・社会性・自己受容の8つの領域に整理し、「知力8（エイト）」と名付け、子どもの発達状況を勘案し、これらをベースとして組み合わせ、カリキュラムを構成しています。
- ・子どもの興味、関心に従って、子ども自身が積極的に学び知識を深めることができる環境を整えています。パソコンと一緒に調べごとをしたり、オンラインで姉妹園と繋がり交流を図る機会を設けたりするなど、子どもの興味に合わせてICT適切に活用するようにしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月1日（契約日）～ 2021年12月3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている法人として研修体制が整備されており、新人職員や中堅研修など職種や職位やスキルに応じた研修に参加できるようにしており、園では受講する職員を推薦するなど必要な人材を研修に派遣している。また、年間の研修計画を作成し一人ひとりが受講する研修を明確にしている。行政（地域）が行う外部研修も情報を提供し受講を促したり、園内研修はケースについて話し合うなど質の向上を目指している。園内研修については、さらに工夫しスキルを向上させる内容を盛り込むことにしている。

子どもが主体的に活動できる環境整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している

子どもが主体的に遊びこめるような環境づくりに配慮しており、自発的に次の行動を起こせるような言葉がけにも工夫している。日々の活動内容は、カリキュラムに沿いながらも子どもの様子や子どもからの提案を取り入れるように努めており、子どもの主体性に沿うことを優先している。また、季節に合わせて、落ち葉拾いや桜の花びら拾いなどができるよう戸外活動の行先を選択し、持ち帰れるような袋や入れ物を制作で用意し、子どもが十分に自然を感じられるなど、遊びが豊かになるような保育を展開している。

子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている

連絡帳システムや送迎時の短い会話において、保護者との日々の情報共有を行っており、安心してもらえるような対応と関係づくりに努めている。コロナ禍において、行事を動画配信し一定期間見ることができるようになっており、保育の様子も動画での配信することに今年度は挑戦している。動画配信は保護者だけでなく祖父母にも見てもらえることから、大変好評を得ることができており今後も継続することを検討している。

◇改善を求められる点

中・長期的なビジョンに基づいた園としての中・長期事業計画の策定が望まれる
単年度の事業計画が策定され、地域の子育て世帯の支援や保護者との連携などを盛り込んでいる。また、年間行事予定や教育訓練計画も作成している。予算については月及び年単位で作成し行事に合わせた収支計画も作られている。事業計画にもとづき実践したことを事業報告として纏めることや、理念の実現のための園としての中長期計画の整備も望まれる。

実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取り組みが望まれる

保育や児童福祉に携わる人材の確保育成に積極的に取り組んでおり、その一環として実習生も受け入れている。法人本部や園への直接の問い合わせにも対応しており、オリエンテーションをはじめマニュアルに沿った対応に取り組んでいる。実習期間中はサポートや各種の相談に取り組み、子どもたちと一緒に育てる姿勢を維持続けることの指導育

成に取り組んでいる。概ねの仕組みが整っていることを踏まえ、実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備することが望まれる。

ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立することが望まれる園は商業施設内に位置しており、日常的に商業施設内のテナントの人々と挨拶を交わしたり、災害発生を想定した避難訓練に参加したりなどの機会を通じて、職員以外の地域の人々とかかわる機会を設けている。例年であれば、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。ただし、ボランティアの積極的な受け入れは実施しておらず、園では受け入れ時期の検討に留まっている。コロナ終息の折にはボランティアの受け入れをはじめ、地域の方がいつでも気軽に来園してもらえような開かれた園作りをを目指されたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の受審が、施設長、主任、全職員がこれまでを振り返ると同時に、それぞれの立場において求められる職務的責任とこれからの目的を明確に持つきっかけとなりました。また、受審により、以下の課題がはっきりいたしました。

課題① 中・長期事業計画の策定

中・長期事業を策定することが重要であることを気付かされました。リーダーだけでなく、全職員で取り組める事業計画を立て、しっかりとした流れを明確にした運営を行ってまいります。

課題② 地域・社会交流

ボランティア・実習生の受け入れや地域の方との積極的な交流を図れる場を持つことは、保育所の社会的責任の一つと考えております。これまではこのような機会は少ない運営となっておりますが、今後は社会交流・地域交流の場となる機会を積極的に求め、保育所の持つ社会的意義をきちんと表してまいりたいと思います。

保護者様アンケートのご意見や結果から、運営に対し深くご理解いただいていることや関心を高く持っていてくださっていることを再認識いたしました。大切なお子様をお預かりする場として、質の高い保育所とられるよう、多面的に工夫をこらし全職員で協力し運営を行ってまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり